

項 目 名	ミトンを使用する
表 題	掻痒感が強く、掻き傷の絶えない方の上肢の拘束をはずす
施 設 名	西条愛寿会病院（介護療養型医療施設）

1 利用者の状況

年齢 81歳 性別 女性 要介護度 5 痴呆性老人の日常生活自立度

【病名（既往症）及び病状】

脳梗塞後遺症 腹部大動脈瘤 糖尿病

H11.7.1に脳梗塞発症

H11.12.14胃ろう造設術施行される。

H11.12月末頃より全身掻痒感を訴えられる。

2 施設内の生活における現状や課題

【身体的な状況】

●胃ろうにより MA 8 4 P / 日滴。両上下肢に拘縮あり、自分で寝返りも出来ない。呼名に開眼されるときもあるが、発語もほとんどない。

【痴呆の状況】

●痴呆度ランク であり、意思の疎通は困難である。

3 拘束に至った経過や原因と考えられるもの

胃ろう開始後から全身掻痒感がみられているため、流動食が合わないのか？痴呆があり、出血表皮剥離するまで掻くため、皮膚科の軟膏を塗布し皮膚状態が良くなっても掻き傷が絶えない。

4 ケアカンファレンスでの意見や協議内容

- 両上肢にクッション、上肢は抑制帯にてベッド柵に縛っていたため、ミトンにて様子を見してみる。
- 入浴日以外の日も六〇ハップにて清拭、清拭後、オイラックス軟膏塗布。
- 家族来院時等外せる時にはなるべく外す。
- 流動食の内容変更 家族は出血するまで掻くよりは抑制をしてほしいとの希望であった。

5 拘束廃止に取り組んだ過程や取り組み状況

- 流動食の内容を低乳糖たん白、大豆たん白のものに変更し、内服薬も服用していただくがあまり変化が見られず。
- 入浴日以外の日も六〇ハップにて清拭後、軟膏塗布するが、最初はあまり変化が見られず、夜間よく背部を掻き、表皮剥離出血を繰り返していたが、清拭軟膏塗布を繰り返して行い、午前中はなるべく車椅子座位にて覚醒していただくようにする。

6 改善の成果

毎日清拭か入浴を行い、軟膏を塗布することによって徐々に掻き傷をつくる回数が減ってこれ、ミトンも終日はずすことが出来るようになった。

7 担当職員の感想、意見

ずっと続いている症状に対して無意識に漫然と看護介護していた事により、はずせる拘束がはずせなかったのではないかと。どうしてその症状が見られるのか、何か方法がないのか、今のケアでよいのか等、いつも行っている看護介護を振り返る必要があるのではないかと思われた。